

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.5.31-6.6

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

24:12 主はモーセに仰せられた。「山へ行き、わたしのところに上り、そこにおれ。彼らを教えるために、わたしが書きしるしたおしえと命令の石の板をあなたに授けよう。」
24:13 そこで、モーセとその従者ヨシュアは立ち上がり、モーセは神の山に登った。
24:14 彼は長老たちに言った。「私たちがあなたがたのところに帰って来るまで、ここにいなさい。ここに、アロンとフルとがあなたがたといっしょにいます。訴え事のある者は、だれでも彼らに告げるようにしなさい。」
24:15 モーセが山に登ると、雲が山をおおった。
24:16 主の栄光はシナイ山の上にとどまり、雲は六日間、山をおおっていた。七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。
24:17 主の栄光は、イスラエル人の目には、山の頂で燃え上がる火のように見えた。
24:18 モーセは雲の中にはいって行き、山に登った。そして、モーセは四十日四十夜、山にいた。

このシナイ山は神の臨在が顕された所で、この後に造られる幕屋や神殿を思わせませす。ここで分かることは、幕屋や神殿が作られる前から、主の臨在は栄光そのものであり、私たち人間が畏れるべきものであるということです。ということは、神様は幕屋や神殿ができてようやく人に現れたのではなく、それ以前から存在しているということ、だから神の臨在は人の手に依らないということです。

私たちは何か自分の信仰が自分を救ったように思えたり、すなわち自分には救われるような要素や氣質があったと思えたりします。または神様のみわざが現れる時には、自分の能力や頑張りや忍耐でそれができたと思うときがあるかもしれません。それは

勘違いなのです。神様の臨在は私たちの手に依るものではありません。

謙遜になり、ただ神様のみわざに感謝しましょう。それゆえ自分が弱い時にも、主のみわざが進むのだと信じて、安心し、ゆだねて、自分の分を果たしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 1日 火曜

詩篇



1:1 幸いなことよ。悪者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。

1:2 まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。

1:3 その人は、水路のそばに植わつた木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。

1:4 悪者は、それとは違い、まさしく、風が吹き飛ばすもみがらのようだ。

1:5 それゆえ、悪者は、さばきの中に立ちおおせず、罪人は、正しい者のつどいに立てない。

1:6 まことに、主は、正しい者の道を知っておられる。しかし、悪者の道は滅びうせる。

幸いな人はどのような人が書かれています。またそれは幸いになるためにはどうしたら良いか。また幸いを取り戻すにはどうしたら良いかということにも直接つながるでしょう。

「悪者…罪人…あざける者」とあります。区別はつけづらいでしょうから、主の御心に反する生き方や考え方をする人々と言っていていいでしょう。そのような人々は大勢います。

ですから私たちは罪のはかりごとを一緒になって進めていないだろうかと警戒する必要があります。計画段階でもいけないのです。また罪の道に立つ…つまりまだ行動していなくてもそこにいることがいけないのです。これくらい大丈夫と思っていると危ないものです。また座に着くつまり同席するというのも危ないのです。同席が名誉な場合や利益になる場合もあるでしょうが、悪しき座につくことは避けましょう。

むしろ「主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ」ことです。主のおしえには喜びが

あり、一日を豊かに過ごすことができます。主のおしえには正しい道があり、破滅から守られることができます。また赦しがあり、安心と平和が実現します。人とも楽しく過ごすことができます。そして癒しや解決があり、勝利の人生を得ることができます。何よりも永遠の命へいたる救いがあり、人々をこの幸いに導くことができます。もちろん自分自身もこの永遠の祝福を得た喜びに生きることができます。

他にもまだまだあるでしょう。これらの幸いを常に得る人が「水路のそばに植わつた木のようだ。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。」と言われるのは当然のことです。

今から毎日、少しでも多く、また長く、主のおしえを口ずさみましよう。賛美でもみことばでも、また預言的な祈りでも…。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 水曜

詩篇



2:1 なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつづやくのか。
2:2 地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、主と、主に油をそそがれた者にと逆らう。
2:3 「さあ、彼らのかせを打ち砕き、彼らの綱を、解き捨てよう。」
2:4 天の御座に着いておられる方は笑う。主はその子どもをあざけられる。
2:5 ここに主は、怒りをもって彼らに告げ、燃える怒りで彼らを恐れおののかせる。
2:6 「しかし、わたしは、わたしの王を立てた。わたしの聖なる山、シオンに。」
2:7 「わたしは主の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。』」
2:8 わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地をその果て果てまで、あなたの所有として与える。
2:9 あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、焼き物の器のように粉々にする。』」
2:10 それゆえ、今、王たちよ、悟れ。地のさばきづかさたちよ、慎め。
2:11 恐れつつ主に仕えよ。おののきつつ喜べ。
2:12 御子に口づけせよ。主が怒り、おまえたちが道で滅びないために。怒りは、いまにも燃えようとしている。幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。

神を侮る国々の支配者たちは、様々な権力を用いて野心を実現しようとしています。そのように「立ち騒ぎ」ますが、国民はマスコミやデモなどでそれらを糾弾します。しかし、結果的には「むなし」く終わるのもまた悲しい現実です。支配者たちは自分を過

信して神に逆らい、神の真理を「かせ」や「綱」と思い込み、縛られまいとします。

それら人間の営みは神から自立しており、人間の自由と進歩と勘違いされますが、そのような神への造反者を神御自身は「笑う」とあります。この世の権力は自分が神のように社会を動かすと、過信していますし、民衆もそれに従うしかないかのように諦めているようですが、神は「怒りで彼らを恐れおののかせる。」のです。

そして神様は最終的な手段を実行なさいます。それは御子イエス様による救いです。「あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。2:8 わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地をその果て果てまで、あなたの所有として与える。2:9 あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、焼き物の器のように粉々にする」というのは、イエス様の十字架と贖い、そして終末のさばきまでが表されています。

「幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。」とあります。この世の権力者や支配者、あなたの上に立つ者ではなく、（彼らは頼れる存在ではなく、主の前にとりなすべき人々です）主の依り頼みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 木曜

詩篇

3 ダビデがその子アブシャロムからののがれたときの賛歌

- 3:1 主よ。なんと私の敵がふえてきたことでしよう。私に立ち向かう者が多くいます。
- 3:2 多くの者が私のたましいのことを言っています。「彼に神の救いはない。」と。セラ
- 3:3 しかし、主よ。あなたは私の回りを囲む盾、私の栄光、そして私のかしらを高く上げてくださる方です。
- 3:4 私は声をあげて、主に呼ばわる。すると、聖なる山から私に答えてくださる。セラ
- 3:5 私は身を横たえて、眠る。私はまた目をさます。主がささえてくださるから。
- 3:6 私を取り囲んでいる幾万の民をも私は恐れない。
- 3:7 主よ。立ち上がってください。私の神。私をお救いください。あなたは私のすべての敵の頬を打ち、悪者の歯を打ち砕いてくださいます。
- 3:8 救いは主にあります。あなたの祝福があなたの民の上にありますように。セラ

アブシャロムはダビデの息子です。彼は周到に十尾して王であるダビデから民衆の心を背かせました。人々を自分につけて、ダビデを殺そうとしたのです。ダビデは命からがら逃げなくてはなりません。ダビデの悲しみ、痛み、不安は想像を絶するものでしょう。

クリスチャンでもそのようなときに、神様のせいにしてしまうことがあるでしょう。なぜそうしたのですかとか、なぜ助けてくれなかったのですか…などと言うのです。しかしダビデは神のせいにするのではなく、「主よ。あなたは私の回りを囲む盾、私の栄光、そして私のかしらを高く上げてくださる方



です。」と、むしろ神に助けを求め信頼しているのです。ここに信仰があります。

ダビデに従っていた人々も結局、「彼に神の救いはない。」と言って去って行きました。中には裏切る者もあったのです。そのような時こそ「救いは主にあります。」と宣言しましょう。

確かに主はダビデを守ってくださいました。歴史がそのことの証人です。私たちも主の救いの証人となるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 4日 金曜

詩篇

4 指揮者のために。弦楽器に合わせて。ダビデの賛歌

4:1 私が呼ぶとき、教えてください。私の義なる神。あなたは、私の苦しみのときにゆとりを与えてくださいました。私をあわれみ、私の祈りを聞いてください。

4:2 人の子たちよ。いつまでわたしの栄光をはずかしめ、むなしいものを愛し、まやかしものを慕い求めるのか。セラ

4:3 知れ。主は、ご自分の聖徒を特別に扱われるのだ。私が呼ぶとき、主は聞いてくださる。

4:4 恐れおののけ。そして罪を犯すな。床の上で自分の心に語り、静まれ。セラ

4:5 義のいけにえをささげ、主に抛り頼め。

4:6 多くの者は言っています。「だれかわれわれに良い目を見せてくれないものか。」主よ。どうか、あなたの御顔の光を、私たちの上に照らしてください。

4:7 あなたは私の心に喜びを下さいました。それは穀物と新しいぶどう酒が豊かにあるときにもまさっています。

4:8 平安のうちに私は身を横たえ、すぐ、眠りにつきます。主よ。あなただけが、私を安らかに住まわせてくださいます。

の苦しみのダビデときの歌です。彼はこのようにして乗り越えたのです。そこには主の「ゆとり」がありました。また敵に対しては「主は、ご自分の聖徒を特別に扱われるのだ。」との確信で、決して心が負けてはいませんでした。私たちもこのような者でありたいと思います。

ですから恐れるべきは敵ではなく、「床の上で」



ひれ伏して祈り、主のみことばを「自分の心に語」という交わりをする、主御自身なのです。この主を「恐れおののく」とき、主はその「威光を私たちの上に照らして」くださるのです。

そのような平安が与えられるまで祈り、主と交わり、そして「眠りにつき…安らかに住まわせて」いただきます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 土曜

詩篇

5 指揮者のために。フルートに合わせて。
ダビデの賛歌

5:1 私の言うことを耳に入れてください。主よ。私のうめきを聞き取ってください。

5:2 私の叫びの声を心に留めてください。私の王、私の神。私はあなたに祈っています。

5:3 主よ。朝明けに、私の声を聞いてください。朝明けに、私はあなたのために備えをし、見張りをいたします。

5:4 あなたは悪を喜ぶ神ではなく、わざわざいは、あなたとともに住まないからです。

5:5 誇り高ぶる者たちは御目の前に立つことはできません。あなたは不法を行なうすべての者を憎まれます。

5:6 あなたは偽りを言う者どもを滅ぼされます。主は血を流す者と欺く者とを忌みきらわれます。

5:7 しかし、私は、豊かな恵みによって、あなたの家に行き、あなたを恐れつつ、あなたの聖なる宮に向かってひれ伏します。

5:8 主よ。私を待ち伏せている者がおりますから、あなたの義によって私を導いてください。私の前に、あなたの道をまっすぐにしてください。

5:9 彼らの口には真実がなく、その心には破滅があるのです。彼らののは、開いた墓で、彼らはその舌でへつらいを言うのです。

5:10 神よ。彼らを罪に定めてください。彼らがおのれのはかりごとで倒れますように。彼らはなほだしいそむきのゆえに彼らを追い散らしてください。彼らはあなたに逆らうからです。



5:11 こうして、あなたに身を避ける者がみな喜び、とこしえまでも喜び歌いますように。あなたが彼らをかばってください、御名を愛する者たちがあなたを誇りますように。

5:12 主よ。まことに、あなたは正しい者を祝福し、大盾で困むように愛で彼を囲まれます。

夜も眠れないほどの苦しみに、ダビデは神に祈っています。ダビデはこの苦しきは夜と共に去って、必ず主の解決が朝にはあると信じているようです。

そのような確信は、彼の敵が主の前に悪であることを知っているからです。言い換えるなら、自分自身は主に従ってきたという確信があるからです。もしも自分も後ろめたい思いがあるなら、このようにすぐに主の救いを確信することはできないでしょう。

ダビデは「義によって私と導いてください。」と言っています。主は御自分の義までも曲げて、私たちを助けることはありません。もしも主に助けていただきたいなら、自分自身が主の義を受け入れる必要があります。そうしていないなら悔い改めるべきです。苦難のときにダビデのように祈れる者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6 指揮者のために。八弦の立琴に合わせて。
ダビデの賛歌

- 6:1 主よ。御怒りで私を責めないでください。激しい憤りで私を懲らしめないでください。
- 6:2 主よ。私をあわれんでください。私は衰えております。主よ。私をいやしてください。私の骨は恐れおののいています。
- 6:3 私のたましいはただ、恐れおののいています。主よ。いつまでですか。あなたは。
- 6:4 帰って来てください。主よ。私のたましいを助け出してください。あなたの恵みのゆえに、私をお救いください。
- 6:5 死にあっては、あなたを覚えることはありません。よみにあっては、だれが、あなたをほめたたえるでしょう。
- 6:6 私は私の嘆きで疲れ果て、私の涙で、夜ごとに私の寝床を漂わせ、私のふしどを押し流します。
- 6:7 私の目は、いらだちで衰え、私のすべての敵のために弱まりました。
- 6:8 不法を行なう者ども。みな私から離れて行け。主は私の泣く声を聞かれたのだ。
- 6:9 主は私の切なる願いを聞かれた。主は私の祈りを受け入れられる。
- 6:10 私の敵は、みな恥を見、ただ、恐れおののきますように。彼らは退き、恥を見ますように。またたくまに。

息子アブシャロムに命を狙われて、苦しみのどん底にあるときの祈りであると考えられます。ダビデはこのように心の苦しみが、たましいもまた肉体の中心までも弱め、男泣きに泣いて目までもかすむほどでした。

そのような中でダビデが見据えたのはただ神のあわれみでした。恨みや憎しみや後悔も消すことができなくても、人を見ても何も起こらないからです。神様を見るしかないのです。

その中でダビデの思いには、上から突然のようにして、つまり神様から希望が与えられます。「主は私の泣く声を聞かれたのだ。6:9 主は私の切なる願いを聞かれた。」と信仰の目で、すなわち神の目で見ることができました。これがなければ、彼は自暴自棄になっていたかもしれません。破滅に至ることなかったのは、そして回復に向かったのはこの信仰なのです。

ダビデほどの苦しみはまれでしょうが、辛いときや眠れないときは、主のあわれみを求めましょう。そして信仰の希望がたましいに与えられるまで、泣きながらでも主に祈りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

